

キバナキョウチクトウ



学名	Thevetia peruviana
科名	キョウチクトウ
別名	キバナセベティア
区分	まちかど しょうぶつ 街角の植物
分布	にし しょうとう げんさん 西インド諸島、メキシコ原産

せつ
説
めい
明

きいろ はな さ に は
黄色い花を咲かせ、キョウチクトウに似た葉をつける
ことからキバナキョウチクトウと呼ばれています。
はな はんびら じょうたい さ じゆえき どくせい
花は半開きの状態で咲きます。樹液は毒性があるので
ひふ つ ちゆうい ひつよう ねったい
皮膚に付かないように注意が必要です。熱帯アメリカ
げんさん たか じょうりよく ちゆうぼく
原産で、高さ4mくらいになる常緑の中木です。

葉の形	せんけい 線形
葉の縁	ぜんえん 全縁
葉の先	えいけい 鋭形
葉の種類	たんよう 単葉
葉の付方	ごせい 互生
葉の基部	くさびがた くさび形
実の種類	かくか 核果
花・萼色	きいろ 黄色